



見どころ満載 自然探究講座「両津大川周辺」

ジオパーク市民講座の一つである自然探究講座は、『自然現象を自分の目で確かめ、課題をもって追究すること』をテーマに、整備されていない海岸を歩いたり、川の中を進んだりと自然をそのまま受け入れながら活動を進めてきました。

今回は、この講座で訪れた両津大川周辺について紹介します。

両津大川のシンボルといえば、津神島そして津神社が挙げられます。津神島を作る岩石は、溶結凝灰岩ようけつねいがいがんと呼ばれる陸上火山の噴出物からできています。津神島に渡る橋からこの岩を見渡すと人工的に空けられた穴がいくつも見られます。

そこで問題1！

「この穴の空いた岩にはどんな意味があるのでしょうか？」

歴史を逆上ると両津大川は明治の初期まで小木で発展した廻船業の船

が風待ちのために立ち寄る港でした。

船を固定するための船つなぎ石が、この穴空きの岩であり、にぎわいを見せた当時の港の様子がしのべれます。

また、橋を渡り津神島に入ると最初に目につくものは、岩に生えた松の巨木です。松は、日本の象徴的な植物であり、岩上の松を描いた風景画は数多く見られます。

きれいな海を見ながら

ジオパーク親子体験！

8月5日(土)、両尾海岸でジオパーク親子体験が行われ、40人の親子が参加しました。

海岸で石や貝を拾い、「この石はこういった鉱石だよ」との説明を受けながら、子どもたちは鉱物の標本づくりを楽しみました。

兄妹で参加した安藤啓通さん・千華さんは、「メノウや黄鉄鉱、赤玉石などいろいろな石を拾うことができてよかった。夏休みの自由研究にしたい。また参加したい。」とうれしそうに話してくれました。

子どもたちはさまざまな種類の鉱石があることを学びながら、親子で楽しい時間を過ごしていました。



津神島と島をつくる岩石（溶結凝灰岩）

ここで問題2！！

「なぜ、岩に松なのでしょう？」

その答えは、あらわになった根が物語っています。岩の割れ目に沿って岩の奥深くまで伸びていく様子は、他の植物を凌駕する松の強さではないでしょうか。そんな力強い老松が私たちを迎えてくれます。

自然探究講座は11月まで計画しています。佐渡の新たな魅力発見のために探究活動はこれからも続きます。

◎教育委員会社会教育課

ジオパーク推進室

(畑野行政サービスセンター内)

☎ 66-4160

第2回佐渡ジオパーク
フォトコンテスト作品募集中！
(12月1日まで)

詳しくは、QRコード
をチェック！

